をにドに院一 し只1豆°歩家 た管ナり入は元 °そツ出会 `よ その盤席は雪り の美を難し降勧 後声全したりめ に部くもしを 府聞集、のき受 中きめ家のるけ 惚て元、津 岡れ 、の仕軽吟 山吟休若事の道 のの日いは詩へ 詩勉や頃全吟の 吟強夜の県学第

成 年 度 岳 精 流 指

岳精流日本吟院

号 6

8 年 5 月 平 成 1

田

っくをたっ学一高や会

じ時原で時 、に書は間声 幸はを吟帯が を地繙じを響 広下いだ見い めのてしって 伝駐発たけも え車表 °つ迷 る場し会つ惑 男でた員交と 達立り夫渉な はっ `々しら った昼が、な 心まも漢集い に、夜詩ま場 太吟ものっ所

た具幅文たびのら歌と るそ吟りたに 代えだ的生セ 現広化人な横かのしそはこの直 。創岡性は、要口ン 化くが達が山に好ての学で文接五流山と自府素写ト し共有にら岳歌きの頃ぶ学化ご十しか美ら中はし関 てにるは教精っな詩 `のびの薫七たらしのの先の係 行学。、え先て人吟ま半な深陶年岳東いピ岳生日な こびそそて生みははだ」がさをま精京音ア智の本く う `のれ行にた沢白明のらを受で流に色ノ先吟的 `も続の学 と吟上迄け教い山地治実教しけ家日戻に伴生ず芸又訛い寸院 言道ににばわ °いでで践えみ `元本っ驚奏かる能無懐た暇と う大詩夫よっ今るあはをるじ吟と吟て愕がら節の伴か °を移 こ学吟々いて私 ° つ文始所みの遠院 `しあの調世奏し何惜り とよのが。いは皆た化め謂と美藤に五たっ直の界のくれし でろ世培集る日で。同た「感し先入十

えた

平 平 平

場

新

設

設

。 て々み、殆、のむ定 、の。 音どア地**吟**年 あし界っま 。本声詩好 。教じさ生会二 近教た楽先クでが前 `よし年 **亚**亚亚亚 昭楽場吟吟

精

私明迎目 等日え指会成吟吟強に心年成成成 でのたせ発長力道を深に経十十 同同 す東今一足有のの励く帰て七二十 の百激時組上強たび人移 に弱を家作教漢 描、戴元り室詩 こ大いよへ うきたり明コ伴 ↑とな 。「日ン奏 しこ廿三をク、 ての周百語 | 音 い夢年名るル楽 るををを

成成成成 和し開は珠吟を 同六く設華 `道 九八六四 十明一のそ、唇 京二ののる向勉み学り月年年年年年年年年年年年の昭如し吟に さ和して心吟 空名励、織へへい、間ろ新丸錬ハ神会清支東千千に六で玉、を °又のい宿の水ザ田昇水部陽代代満十あ吟吟〜 音学 `教内教マ教格教昇町田田ち年っ `友で 楽と廿場女場教場 場格教教教で [〜]た玉**、**あ 場場場い前。杯吟っ とし年新子新場新 新 設 新へったのこ してを設教設新設 °夜う玉 設昼夜 明し花吟 けて等狂 新新

設設

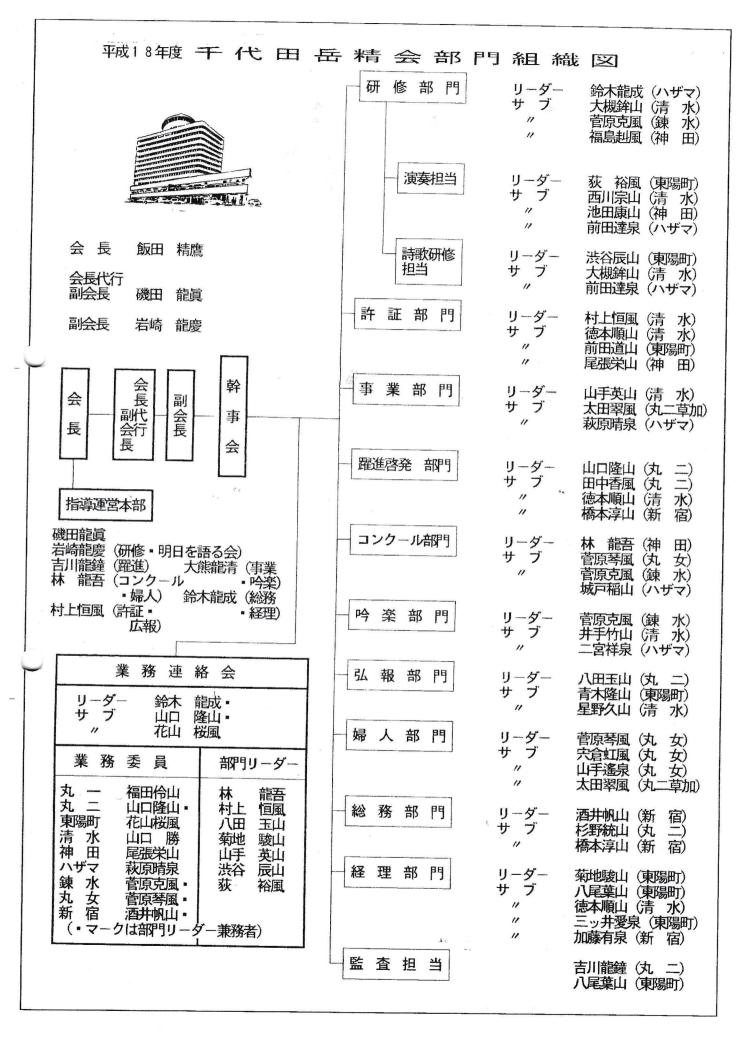
は教

てこ経

のの過

吟詩し

のをた



岳 精 会流 長総 代本 行部 副副 会幹 長事 長 磯を 田拝 命 龍し 真て

き 幹

平

度

伝 審

査

成 緑作

てわ分部穂たさヶ いしに部支°れ谷 `O ま `吟長部今 す声じの長年追宮 、面との試崎

と受終先園審を県 の審了生田査含東昇 過態後。龍員め京伝 分度の受鵬は百ビ審 のよ講審総府十ル杳 褒く評者本中一でが 評指でそ部の名十 で導はれ研佐が五新 あが「ぞ修々受日緑 っさ節れ運木審開の たれま存営精し催市

おんに支るの岳の任あ

と全ば長まるへ犇長宗

もう `始す本の々職家

宜す浅め °部任とを就

しる学会この命感拝任

く事菲員の大はじ命の

ごが才の期い即おし慶

侠出の皆待なちる `祝

援来身々にる千今唯の

のまの様応期代日々年

程せ私のえ待田こ青に

平 成 お十 め八 で年 と度昇 ご伝 ざ者 11 主略 す敬

反に変まはで審も

°続にす歳みっず。の此苦が会

けなねをがて、何かのし過に

るり 。過残ゆ大度と齢みぎお

事ま頑ぎりく人受自にのま世

がす張てま心にけ問なみし話

出。つのしがなて自っでたに

来教で勉たけれも答て`がな

°でまこし胸本 `り

しせのなの当毎ま

ょん高がドに年し

う。鳴らキ落のて

か詩り受ド第昇早

`吟はけキ生伝く

中 伝 丸丸 00 内内 第第

に流っ

お吟会部吟き員田チよし百合当す統吟扨願。は援為現精頃のた新

員頑互友出大楽日がの1りた名わ千べの友てい何到がにれ会で重り家

の張いよ吟会の々喜記ム大い会せ代く更の `し卒底無はとにす大副元

様ま康難秋コ事送を大編準のを甘も動る拡年す後をれ会いす私を事新

。。行をび念が会も員、田運な輪今ま今任け、思対。

初 伝

° ŋ

武ま

道す

館

.

祈

念

丸

0

内

女子

な会代ト年に二を

のしにうのンもっ分会成備で確周 `が飛大は

一ょ留!行ク山てかをさのす立年こ展躍二本 健う意 楽 l 積おち全れ為 。し記れ開と カ部

吟吟ルしり合員着、ごて念にさ基年に

°会、オロのあをしおよしは

と夫ラジ様る念てりりを

寧々がェに大願歩ま強立

日の千ク昨会の調す固て

ハ神

マ田

てけおし

ザ

吟縁行出てまう参々各承意大呼れ礎計於

楽感会吟おす大加とプ知義会応てを画て

錬

水

ハ神清東丸 陽の ザ マ田水町内 第

藤内田山山小橋緒越池伊宮佐渡唐島木 原田中崎口林本方村田藤崎藤辺沢田村

寿伸宗洋勝明静泰梢幹浩無光笙道華槻 泉泉泉泉泉泉山山山山山山山山山山山

> 初 伝 を 丸受 のけ 内て 第

橋 本 静 泉

あ暮にめ に様め し元悲私まら世ト七省向わし何す査四岳 りで少た私 初 て気しがすれ話で十のからたな°は年精 `しし清が 伝 審 漢たゆ水詩 行でい入 詩。と建吟 查 き楽事会 を元り設に を たしがし 受 いい続て 唯々がを出 でこきか 読故出退会 清け すとまら む事来職っ 水て こやた時た 思 ねのし 山う °多た井 と歴平 、の 宜い °手 口こ に史成気は لح し詩ど先 物に十持 く吟う生 足興四と永 勝 °教かを り味年時年 泉 ながの間勤 室皆始

ま室楽強

すのしは

事皆み遅

を様ない

祈にがス

つ助らタ

ししにではの表し目毎気 たてなす特発わたの回雅去 °吟り °に声れ吟審の号る こずま千念にるで査事。四四 のるす代頭つもすをでを月 四こが田にいのが受す戴十 年と、岳おてで、けがく五 のだ当精いご `自ま `こ日 うけ初会て指園分し緊と ちをはに勉導田のた張に初 に考大入強を先欠。のな伝 ハえき会す受生点何うり審 ザていしるけかは度ちま査 マお声てつ `ら自もにしを 教りを四も今母然練四た受 場ま出年り後音と習回

吟々まの労仲

れしの出先も出

て佐来生苦て

とおれ全一 歩訳 ま出れ事十 早1さ す逢かな九入を手ば体初当のも初速クを いらこ詩会思柔なにめ日詩わめ入ル感 をものに以いらおもての宀かて会にじ 大末宝な降出かようで審をらのし詩で 切永物り `しなろ少す査臆ず昇ま吟い にいをま教てごししね員面 `伝し部た し趣まし場い講い滑、横も中審たが矢 て味すたでま評でら結山な伝査 ゆとま。のすですか構精く指は きしす私履。ホねさで真吟定翌 たて増に修 ッ

「
が
す
現

じ

吟
年 とと表ね宗ま題で い吟やと吟 と友しっは しの現 °家しのし 知〇 思と 、て百 た誠出たかたった いのこ大三 こに来だら

> 初 伝 東い 陽て HIT 小 明 泉

会いけはがしのし、四八で精 しはる、伝ま朗ま、年年す流私 詠木しご致々岳しはる `伝ま朗ま を精た指し直精て宗かとわい々し、前位 のも楽穂 。導まら会し家どてり、たちチンマサイ 楽穂 。導まら会し家どてり、たたずに家詩会こ ん生伝岳た**ゆ**入い吟か岳体皆吟本と子のはに度 でよ審精。りつまで見ばいた。 ん生伝音にゆくいらか音体音らなってのはに及でよ審精。りっまで疑精験様に当と澄事廿な初 えていかるら 学でた つっ 即のてら情れ宗を川が途思と 入思いで熱て家致口、中い岳

も、の最早出自吟知い

ず分をはも

とじプ室四

なってにとれての先く

てとりた

`でテ

吟吟丨

は

教で

で年

初

伝

審

杳

を

ハう

ザけ マて

内

H

伸

泉

もごををれた深ご鈴 り指味よか。さ指木 で導わくら幸の導先 すをい理はい一を生 °受乍解素に端う並 けらし読しをけび `先`をて感てに 吟生 、充 、じ、 の方真分今る最先 道並・し回よ近輩 にび善て初う漸の 精に・、伝にく吟 進諸美漢をな詩を す先一詩戴り吟聞 る輩ののきまのき

つの心心こし奥又の

る`

と社

をの

り B

`#

を 頂

まのくよ張 縁行思 すで限りる歳にさい私て り感自と喜せ `もも ご精謝分共びて天早気 指進致ににを頂童く持 導しし `声感きや皆ち 官て、このじ、佐様が し参これ衰る宗世の楽 くりれもえ日家保仲に おたか吟を々のの間な 願いら友感でお吟入り いとものじごっ行りま 申思体お乍ざし会しし

しい力陰らいゃにたた

上まのともまるもい

げす続心頑す吟同と

伝 審 查 に 7 神雅 田号 を 山頂 崎い 7 洋 泉

昇

にう輩 にまる導スコ いし聞のと なにに今きしよにンン四ままい範な時ないでクログログ り洋少後たたうよでク年せして吟り た々しもの。にりの1のんた参 いとで皆かよな、先ル間でが考先。始 としも様とうりな生等にし 、に輩 思た近の思や、んをが、た声し方。て い吟付ごいく雅と始あ昇 まがき指ま私号かめり伝 す詠た導すのを吟諸、試 °じくを °吟頂ず先又験 ら`戴 人くる輩日 生事事方々温 れ名き る前、 のにがのの習 入な出ごレ会 よの諸 口り来指ッ うよ先

吟 剣 詩 道 吟 詠 コ ル

一品期号東、でれ開春 般川待を京初優ま催の 三区さ手都入勝での訪 部予れに大賞二最品れ 選まさ会九名多川が すれへ名をの・ま °る出。始七港だ 頃吟うめ十・感 にすちと一大じ はる十し名田ら 多。一てが区れ く皆名廿参予な のさが名加選い 朗ん五が°に弥 報が月入各は生

◇が本の賞部こに

二三入二入入入入入五四三一 入入九七四一 位位賞位賞賞賞賞賞賞位位位位一賞賞位位位位 青徳萩菊古八遊仙永渋城宮中^月山村菅小板林月 手井原林橋 千不平原地川田佐田岡台戶瓜川九十井原怀偏 一 千恭順晴駿章玉峰土詠辰稲保睦日遙蓉琴公禮龍八 英泉山泉山泉山山泉山山山山山)泉山風子泉吾日 丸神丸神丸神

女田女田女田

一港

船区

三予

部選

草草清ザ陽水ニママ町町マンマ

港

X

吟

詠

コ

ハン

ザク

マー

中に

川優

睦し

山て

ル

勝

木本原地川田佐田岡谷戸武川

· (0)

°で失項

絶格へ

句と抜

(す粋

つる

か

え

ること

ロイを〇 ``お審せ吟を吟次大 発吟い杳のじし詠の会 声声てのべ始たの場実 がが行採ルめ場途合施 正すな点がて合中は要 しぐうは鳴か いれ。次っら のた二 かて 各場分 どい うる 項合を かか K 。超 ウ え I た 1 知 5

柴吟に

一題四三

では度月

し、目十

た盛の九

が唐参日

十鹿のル

青

年

0-

部部

久山(清水) 星野

と時れ鳴る

自はたら先

分び。な輩

にっ結い方

言く果かと

いりの心の

聞し発配競

かた表だ演

は酌で

格な

たぎのはム更から

がる経やオどどえ

大。験りlううて

し前がたバしかい

た夜あくlょ°る

効のるなはう

果晩のい失も

菅板宮林 原橋武 琴禮保龍 風泉山吾へっ前 `次た年東 萩渋青中の橋度京 原谷木川十本優都 晴辰恭睦二淳勝大 泉山泉山名山で会 `の〜予の 橋小城柿方新選出 本林戸沼々宿パ吟 淳公稲千でごス者 山子山英すをとは 子。加な

せがでって り一臨も出一の で和むの来港で東て「名たあ日なの変過だい採 あ服こでれ区、京い自前とる頃か量な去かが点吟詩発い初 る」とあばコ気大た信を後一尊っを予にら `に詠心音るめ をにる東ン負会 °を呼でべ敬た増感何 `絶つ態をがかか 新す。日クうに 調る一本 | 気は し。詩のル持何 てそ心出しち度 点れを場のはか 数と掴権優特出 をこむは勝に場 稼れ「掴者無し ぐをこみないて つ機れたのがい

もにでいで `る

ク 1 ル K 清入 水賞 L 古て

J

、期加 こ詩を港 の人し区 吟王ま吟 題維し詠 はのたコ III 三五。ン 部絶今ク 章 泉 六一回1

持ば知ルしよやが度こ句い度的正 てれらしてうし頭かれとてが確し 一たさがいだてを絶だタはいにい ŋ °見よ句けイ今いとか ま で 音 程 が 定 L

か

-5-

発 のこル 声当でとの三 を日不で三月 み `安す部十 て出でがに八 頂場一 `初日 い直杯コ出 た前でン場品 時にしクし川 に菅た」ま区 ルし吟 、原 コ琴 はた詠 始。コ ン風 め当ン ダ先 て然ク ク生 タに なのし

コ

ク

丸。

のル

内初

女入

子賞

板

橋

泉

楽益感びが もそはとたが河りたを う徹山頃五 で次し々謝に、清のの常痛。、内感結胸当かし水水人 宜のん漢申村飯水と結に感詩誤路動果奥日がて画墨中 し飛で詩上上田教心果こし吟音上しがにはわ `や画私 く躍ゆのげ教 `場にがの `のででま入想 `れ自詩を一 ごをき心ま場磯に銘今事そ基失自し賞い王て然の趣人 指目たにす長田入じ回をれ本格信たのな維`の世味で 導指いふとの両っての心かはのを °栄がの尊静界と意 願しとれ共ご先てお受がら正無持昨にら五敬謐にし外 いて思 、に指生五り賞け日し念っ年浴 、絶しをはてで ま努っま、導の年まに精頃いをてはす自のて愛、おし す力てたこにごにす結進の発味臨菊る然詩おす自りた °致お漢れ、薫な °びし練声わみ池こ体心りる然 つま習といま渓とで `ま人観王私 しり文か心陶り まま学らか `ま いし時発まし琴と吟詩す柄照維は たたに音したのなじ情。がにの日 すすをもら並す

生しも 句っにた奥もな にた出今しとな頃深七る声 「が場度で足るコさ年よが **素** `とのしがとンが余と出 読腹聞コま震もク少が誘る ーをきンいえ言しし過わよ O括一ク大 `わル解ぎれう Oりしし恥昨れ等っまてに 回観まルを年まにてし吟な 一念っはかのし出きたをり をした他き温たるた。始、 勧ま 一流ま習 。と三吟め歌 めしと派し会人良年のてが らた思のたで前い位難 `上 れ。い方。はに経過し早手

絶立験ぎさくく

、先ま々

しと力漸

45

素 読 0 東〇 陽回 HT 永 出

吟

剣

 \Box

ン

ク

1

ま名

れ前

たが

様告

なげ

感ら

詠 111

常な初正が何出て代 聞出にいめ確 `も場全田他 か場繰様てさC知す国岳流 せす返にの `Dらる吟精で るし、事態伴ずよ詠会吟 会事覚芙ば度奏参うコにを 場にえ蓉か ` 加教ン入楽 に意る楼り詩調す場ク会し 神ル 向義事に、心和る長しさん い有にて誤表 `事よルせで まり努辛読現アをり品て来 ` `ク決勧川戴た た自しを絶時セめめ区き私 分ま送句間ンまら予 `が にしるは等トしれ選初 ` 言た**」**し々のた `にめ千

田初 入 小賞 得会は本か と終が着用れ が戴け払そ 出に良人っまでえ `き意 `い最き `拭れ 来もいがたさして絶まさ緊よ後まよ出な るっ刺一しかた `句しれ張いのしう来り 吟と激番、入。ホすたてがよごたやずの ッる。い高当忠がく、努 を精にび結賞 勉進なっ果す とこ足たま日告「節先力 胸とのおっ、で絶調生は 強しつくをる してたり聞な をも震湯で順し句等のし な無えをき番たをも特た た `のしいど でくは吞てが°しO訓も い自でまた思 と分 `し時っ 下何有み喉近 なKをの 思自こたはて ろとり少は付 いの何の い身れ °本も しかまし渇く よ言回不 う葉も安 まがを今当み た吟しはくに す納機回にな こじた落しつ にを受は

覚れ「舞と落返吟よも入すとん体い拘」

をた第台は着しじううっ練にでど調らで 覚時四に一いまらもこて習かしう子ず音

え `位上いたしれ無う順をくたなっ `階

ま只:がつ自たまくな番二高がっぱ私を し々:りも分。す、っを度く、てずか弾

た狐」まのをと様ひて待程声出いれらい

。にとし様発、にたしつ繰を番るの出て

つ私たに見思しすま席り張がの音た下

まの°ーしいとらっに返り迫か:声さ

とたが深一た着し上っ理。はっ

念のけ呼普らきてげて解我とて

じでず吸段`ま`てい出なんい

なすスを通どし場前た来がでる

が。ツ繰りうた内にのまらもに

らあとりにし °に出でせーなも

-6-

目済臨精の1生出挨て輩一 分んむ神人パの場拶練にコ かだ。的かしみ者に習言ン らが幸にらをがのみをわク ず無いもも見絶りえ始れし 我一落ペて句ハため `ル 夢度着 | も ° | 磯た何に 中もくパ良先サ田がと出 `ペと1い生ル副`なて 自しもをとよを幹たくみ 分パ言持言り行事まそな の1わっわ本っ長たのい 出をれてれ番たのま気か 来見本い、で処前教にし はず番る隣は `で場なと 皆ににと席ペ小、にっ先

の林ッまつ事着をな絡っ名れすン 上今お教キす経にい意るむたもた一ク菅 げ後陰場1 。験意て識。、とい方何1原 ま共だ長と今を義来し出緊思まはらル雪 すごと `し回積有たて番張いしーかに山 °指感先かのみりよ腹をすまた般の出先 導謝輩言入重 、う式待るし 。二事場生 のののい賞ね初に呼っとた私部情出の 程気皆よはてめ思吸てい。はでで来お 宜持様う無行のいをいつ喉出五止た言 しちよが欲き一ましるもが場十む方葉 くでりあのた歩して時こ渇出八な々で お一のり賜い `たい一のく来名くは一 願杯ごま物と一°る丹状 `ての欠幸今 いで指せと思つ出と田態痰よ内席せ日 申す導んラいーる落�にがか七さでコ

> クロ 1 国国子 ル吟吟チ 剣道 | 詩大ム 舞会が 道合挑 大吟戦 会コ 合ン 吟り 1 1 ンル

日ル作賞吟ム武て スンで 一子指廿 ではも本清チし周武よ部での道が道い毎 す吟出数明 | た年道り門優精大挑館る回 °力せ目 ムがを館十リ膀鋭会戦の全女 多のま標杜の `記 一回 | を十はす合国子 く大す三牧想五念十のダ目名 `る吟吟チ 。コ道一 の幅。本作い十し一特1指が全 方向コ 、でを名、月訓のし、員六ン大ム 参上ン合挑背の男十を指 `古が月ク会に 加のク吟戦負壁女二重導林城昨廿1合上 し最一ですっに揃日ねで龍一年七ル吟位 て高ルはるて断い一出、吾瓜の日にコを 下のの一。男念踏に吟一コ生武開男ン占 子しみはす月ン田道催子クめ さチレ本 いャッの がたを創る廿ク山館のチーら 女目立 °七 | 桜入 ` | ルれ °ンス人

口

ン

ク

1

ハル

ザ初

マ挑

仙

H

士.

泉

戦

°間導考だたわち記記 の者えかられゃ録録 方のて慌所 `んをす 々鈴みた用慌返取る の木れだのて事っよ 東♥ 銀買♥ 人教♡ K V *つ♡

発力♥

足室♡

°日吟本 付友荘 で増麗 分加山 室のさ 開成ん 設果が のが ` 運実常

お先ばしたてをてう

陰生今いめ前しいに発

と `回一中へてた言表

感城の日座:前らわ時 謝戸初で:表に `れに

しさ入し。彰行仲ては

てん賞たヤ式っ間い入

おをは °レがてかた賞

り始偏しヤ終一らの順

まめにかレわと一で位

す仲指し何っ言仙 `を

分 参陣東若教長 お先き千室こ加容陽く場 渋轉始十仮教と結取東 願輩な代体れがで町意長補谷とま四の室なび組陽 いのは田制に見す教欲の佐辰のっ時スはり `ん町 し吟ずのとよ込が場溢体役山事てくタ日ま五で教 ま友み廿なりま `よれ制と分でい十1本し月き場 すのと周り、れ更りるでし室すま五ト橋た一たの °皆な年ま千てにの新 `て長 々る会し代い何移会発花 ` 様と員た田る人籍員足山本 は状かをがと桜荘 期二 ご待百 九況の含入共風麗 教で新め会に東山 支さ名 場す会八さ五陽副 援れ体 。員名れ名町分 官ま制 しすへ のの `の副室

。す時 。 富 が三月沢 、十に町 十分二の 月に回ビ にレ `ル 銀ッ金の 座ス曜一 ヘン日室

移がので びを々

7 –

┓るは たに△加機 いが┓プ田 っプが週う第 ざ教 湖うじし °吟弘わにさなで名バ岳平てに印のけ一入っ場林 上ちめかこ詠報り、ていて槍ッ精成吟と象絶たご会とに龍 にに `しのの紙 `本平 °い日タ会四をりに句 °飯当十入吾 飲、各、状修)ま部成こた本一幹年始、残をい田初五会教 す心種第態得のたの六れ。号と事秋め先っ吟つ・は年し場 □に行三が時発会広年に実□し ` `た輩て詠も井毎にた長 と残事次今間行昇報千ははかてに京よのいしま手週なのに 李るに中日がに格業代驚まっ、初浜う吟る、ず両木るは誘 白一出国ま取取に務田いだ富プ参合なを °直故先曜 の詩席旅でら組伴のがて充士ロ加同状研私さ田生日 成れ ■はを行続れみいお支し分山グし温態究はれ中の 四て 汪、重にいて、「手部まに」ラた習だ、専て保ご現 年 ` 倫蘇ね参てし結ち伝昇っ習のムが会っ秋らい氏指丸 に軾て加いま果よい格たっ吟にトへたにテたが導の 月代 贈のいをるっ的だにを。て詠はッ下。なしの前を内 Ш°

杜

甫

K

ハつ

ザい

マて

教一

場考

宮

修

Ш

察

旅

夜

書

懐

杜

甫

桃李 花白 潭乗 水船 深将 千欲 尺行 不忽 及聞 汪岸 倫上 送路 我歌 情聲

福そ 島の + 赳四 風 言一るとたる

贈

汪

倫

李

白

私

0

A)

神に

田残

教る

場一

詩

わ君しでこし れのが一とと た持 `友とな うも情、っ たち一広た と歌を報 しと表業西 てな現務湖 いっしをの いたたや現 で。一つ地

す林汪てを

ね先倫い見

一生にる学

とも贈こし

漢

飄名星細 觀豈垂草 何文平微 所章野風 似著闊岸 天官月危 地應湧槽 一老大獨 沙病江夜 鴎休流舟

綸名独: を豊り高 行くだく なのけそ っ句がび て:目え こ政覚た そ治め帆

しる独語

大半舟釈

1: O1

に舟自危 経°分檣

本家て柱

懐とい"

っ彼至詩詩っ世る杜祖幾鑑 たにもの魂たの詩甫先一 残、世がが不をはが帯賞 さ生界彼時幸書官存の れ存でに勢をく吏在名杜 た中は筆はなよにし家氏 悲は『を彼くりな `では し放詩とにすもり常あ長 い浪聖ら味道 `たにる安 運と旨せ方を宮か誇 命貧と続し終廷つり文中 の苦呼けな生にたと武心 詩とば、か歩出。しにと 人詩れ後つみ仕片て秀す でがる世たたし々いでる あ、に、°か、たたた近

すの景ら一 ういこはう分き湧野地れい た職だ 移かれつこーよの `もの乍きが平ずる」 りらてとの羽う漂官な名ら出どにに岸意 方遠いし詩の゜泊職いな大るこまい辺──沙病か が景るては鴎果のをしど江よまでる `か鴎のし 実へ 。 『杜とて身辞 ` はうで垂舟高細: た にと杜唐甫でなのめま文悠にもれのいい砂めそ 見移甫詩のもい上るた章々昇拡て中帆草浜辞の 事動の選詩言天はのこにとりが瞬 °柱がのめ政 。し視旦のお地、ものよ流、つき満の微鴎ね治 深、線に中うの一止老っれそて、天も風 い風はもでか間体むいててのいそのとに なと 余景目採も °を何をた著い光るの星 `揺 らし 韻模前り傑 さに得病わるに °下は独ら なて ま似な身せ °煌月に広りれ を写の上作 かの よていでそ自めは平い眠て 残へ光げの つ官

か つ前 た号 ごで 寄、 稿頁 で数 すの °都 合 で 掲 載 出 来 な

習 会 独 吟 コ 神ン 田ク 1 内ル ILIK 優 雅勝 泉

精こざ皆導もをば林りが認感を舞が万れ番。1会千 進れい様に良頂、龍ま私めし戴台、歳ま号今ル参代 しかまの感いい必吾しはら `いにむ」せと回に加田

たらしご謝結てず先た三れ尚た上しとん名 `出も岳 °十たか時がろ叫で前初場今精 代のつやっほびし一伝し年会 にだ、ってったたをのてでに 数とやと磯とく。呼部三四入 年思っ一田しなしばの回回会 吟っと優副たるかれ結と目し 詠た自勝会感のもた果も の 。分一長じが有時発二毎四 経余のしよで普頂 `表位回年 験談吟たりし通天信ででコ^{*} がで詠と賞たでにじ しン温

あすが実状 すっらったク習

°援たがり勝よ をし出までり 思友 得ませしき自 てすてたる信 ま共 本と、°とを すに 大 当共林こ励持 にに先のまっ 4 有 `生度して 12 難教のはの吟 吟 う場ご幸言ず 詠

いもた声い果お優生

ごの指に葉れ

奥 伝 師 丸範 のを 内受 第験 稲 #

碩

風

準

師

範 試

験

ハを

ザ受

マけ

功

刀

蒼

Ш

7

しす伝し時てク °審た間緊か十 勉大衰受くの回の来年私た °吟杳 °三張な一 題を平十しが月 は受成分でわ三 - け四、臨で日 感た年真みの一 有時初剣ま奥文 りのめにし伝化 ┗事で問た師の 山を川題 。範日 崎思崎に筆審し 闇い本取記査サ 斎だ部組試にン 作しでみ験極り でま昇ま一め丨

のをよ心と吟が精・ヘ第平強切え験思皆位伊十退の つ通りで話一一語十の二泉とだたしっ様と東四職吟 なじ益すさ吟岳録月誘放澄しとこててになに年の歴 がて々°れ祈精にテい送(て思と感い大り転余平は `居`成 。倒崎教中年田 を教場平十会 お場へ成月長 か長の八入と けは出年会の しじ席三で約 心めが月す東 苦吟月伊。で

し友一豆以定

い、じま変 り善健先てり流円キ (講 に男康ずいをは覚ス石金談(1)ま普たす面岩し途三飯 感善に健ま込野寺ト川曜社物し段事 謝女な康すめの続発忠午学語たのは とっな。て仏灯行久後術日。勉 九文本そ強記 年時庫史こが憶 二く一上で何力 回十(2)中周よが 、時N下辺り随

四漢H巻のも分

第にごで資(4)(3)(1)で官し試こ代を細たを 来し今請増雰下皇生 `功午で出指あ格本」宗落のく験と田読か °与入 るて後がや囲間御時次刀後あ来導っ取年佳家着中緊 `にかみい磯え門 がゆ如あす気が製代い姓はる `のた得度實信けに張答心ら直ご田てし 。後宗好条た磯す案強四し指副頂て °答お 案陰前の家主 °田る用か十勇導会き八 用で述心の (2) 設副気紙 つ余躍を長感年 紙筆の構指の十問会分二た名試受 を記事え標詩題は長に枚。受験け鈴量準 文の五のなを久験場 `木な師 一試前と 枚験の抱及に詩つ姿っ眼方とに岳教る範 追は行負び吟の、がた前振の臨精場も受 加スきに(5)譜作即あがにり事ん語長の験 しム届つ準の者ちっ `しにでだ録のがの 。四キあ機 たしいい師記選を試て筆、 次スたて範入定 の験少記ま千巻メっ会

いと

吟謝だし雲

のた毎祈吟の庵

美事日りず心の

しににとるを須

と吟にの「一師岳月詩K

い感感は流心原 人謝謝感統と耕 要をなご天学りず `く何り事のあ**っ**かでの佐 まかに面を中りさら答由々 こ `し接常で `し最案来木 と文てをに終このも用に精 に章会終考了のぼ好紙つ穂 心で員了えし間るきにい先 配はをして、約一で書て生 で簡増ま欲最五にあいごの あ単やしし後分つった質面 るにしたいに和いた私問接 °旨会やて明のが 表 の員かの治小あ先 心現指

-9-

生あ機 。る一 + 今°転 年 H 後磯 0 共田生 折 官副々 し会発 返 く長展 ごし 教鈴て 導木頑 を教張 °場る 長所 両存 先で

清し 水点 Ш 手 英 H

- ح '

OW

う新

間境

に地

進 師 節 丸を の受 内験

H

で

あ

n

ま

L た。

第し 二て 野 沢 柳

Ш

と日 師 範サ のン 審ワ 査し 会ク

進

参ま拶査 ともの十の じだ詩 十を りるを会 感の進年様 て未吟 年見 いだの まご拝と じと路間な の出 さ人様に答の す教負でらる予問「強し数思 がか 持い持先新れにに言え『午。えにすれ特備題始くたをい今行な秋 ちおち生人た教基いが真後難るつ。何別知五め宗。重ではなが晴 に声でのに気え礎表宗善はし事い一と講識問一家数ね始亡わわれ な掛退言もがるかわ家美石いはて準か習とものの年今めきれでの れけ席葉キす事らせの『井事責』師解 `心 `合ごぶ回た従ま奥十 まとしがチるは勉た意に精だ任述範答模構事図挨り準吟姉し伝ー た胸ン。出強かとつ禎とをべ取し擬え前で拶の師もとた以月 来し疑すい先思伴よ得た試にに午も試範、合 な直問るて生いうと後が験つ磯前上験のい吟 いさがと尋のま事のの `のい田中のに受つ出 とな残こね面すだ設心難練て先は空、験の来 。と間構題習 `生筆で緊と間た 思けるろら接 いれ °をれ ` 思。えはに予に記し張なにら 知ばこ的た宗 い人と作助習よ試た感りかと

まに抱文けする験。もま年の

し指聴し てしにの大 る半世一歳だっ

感改宗はま大と度折度でかあで流以吟

謝め家岳す変元を返のあなり一れ来ず

事てこて査

だ戴れ、は

たるらのこ

っけかこ

°有気確し準りとま人ま `る

なえ `し審 °省 `と

意を認点師ま、す前しア自

義与しと範す反が一たッ分

し自言

つ分わ

つはれ

吟未る

拡らかな磨員勿 `新た導して今おて自習事こ現人界十月し詩

げゆないきの論ご年 °に ` `回り `信熟なの状前で年がてを

のての精

念今感宗

が日無家

こま量の

みでな最

あのる後

げ心ごの

て温挨審

を二にた独中自生やを生る何近切中 教明堂 とな人待ス親。吟、然のが太とのかくれ一思場解で歴 呼ら生たとし人に小の秋てらしががが目社う通な `史 ぶば若ず様むは聞学流を秋せ生当欠過無会にい詩飯の べ 、くに々 。夫き校れ知を 、け然けぎし人我が歌田香 き今盛去で体々惚のでっ迎枝るかて、のと々始の会り か置んっあ力絵れ同あてえをももいさ仕し世ま講長漂 °かなてる維画で期ろ心で張の知るで事で代っ話のう かれる往が持 `文会うの実り `れ空りの歩はたに心明 くてとく、に楽頭で。稔を、春な虚タ連み 惹に治 言いき方一、器の林そり結葉かいなイ続始戦 か響生 うるを々方ゴ、仕龍んをぶをら。感ヤでめ後 れく命 自時青も秋ル陶儀吾な望様繁夏世覚し `吟本 身期春多のフ芸と先心むにらへのをて半次荒 律声社 のはとい訪 `なな生境の `せと中感み世々廃 儀との 秋紅言 °れテどっののも人て幹 `じて紀との な、講

ら、の確。家

をあ豊のに会は躍

たる、よを一で指度

い機明うか人あ導か

と会る研けとりをら

思通日に準てす層元

いじ本励師 `が懇と

をて一み範更、願し

新一の `のに自申て

た吟未そ名一分し益

に縁来しを流と上々

しのをて汚統しげの

た輪信一すのてるご

一」じ心事吟は事活

気し気の

た笑がにと

額 `残教

に前るえ

ホ澤。て

ッ先少下

と生しさ

しの重い

た優いと

をい鑽 `しま一家

感 しも人 謝最た階に上 !後い段感手 うごい段与ず ご指まずえる まい した た各 °先 生 方

丽 有にとを動に 範 難、思一を吟 丸の の許 内を 第戴 ざ導すつる気 い頂。上様持 -17 っなち 7 て吟も 神 いに大 くす切 努るだ 和 力為が Ш K をに

北〇 力厚ンの 温そ 尾東 といス江生習の後 期社に戸れ会日援喜町新い 待長熱っも出か者八・ 大さを子育席らの郎鎌会 大さな丁月パラン でん上。ちを熱紹氏ヶ員 あ。げ若も機心介へ谷 り分 `い芝ににで十分紹 ま教今頃の入参六二室介 す場はラチ会加月月 °発地テャをさに入 展元ンキ決れ教会 のの系チ意て室 原人のヤ。お見 り学 動望ダキ

上ま杉泉 らににに て吾芸何の 増が三一中病も げれ緑さ五んこ 、間此こが術に中歴々事年龍に災、 陽二たる山ん月との生いのい心は表で史回の療吟 `にこ °さ、十初芸か直度のを、現魂に復様養」病遭れ 吟ん井八心術せすの習稔作しを名がに後、院遇迄 友 `手日にをてな準いら者伝削を早悦教ちのしと と平龍の帰後頂ら師事せのえっ残まび室よお 共井樹合るのくば範にる魂るてすっのにだ見覚四 に紅教祀心世幸 `の思人にか作人た声戻」舞悟年 参風場祭境代せ人許え生近とつ物。をるのいを前 拝先長ででにを生のてのず言たが し輩にはあ継感の意な秋くう詩、 報が続、るぐ謝紅義らにと吟歌そ 告碑き高。 °新し葉をな、同とをの 申に、橋 人 `の自いも時言 `人 た更時身。っにう如生 し刻大耀

#

小◇

林東新声級看でよれ

欲いし

陽人のの護正り `同

加 `事会 °易太さ

え書のと温い田ん

ま道中な習鎌草へ しに、り会ヶ加十

た若趣まの谷分二

°々味し教に教月

意しとた場教場入

溢容て多吟開に

れ姿プ忙出設誘

た `ロな場日わ

°合室長会

神

掛と郵は決に

け `送もめ入

て吟なとた院

く友どよそ手

れは頂りの術

`我き`最の

町

望◇ 本 月清通レを 覚四 が月 優入 れ会 たし 若 °にん会 々 名も、 L 前チ剣 11 のャ舞

崎です 草し十銀 村だし 在一 水りン習本 番お さて明 やが今 て月座お ラ輝教明ジい荘明のっまっ分る玲る `年政頂かで洒雪町で吟編の式出通郷澄 ン夫場日し始麗日頑とゆて室く子氣五八子くらサ落子・すを物仕入席いの子 のため山香張りみいの楽さ満人十さこ、口でさ銀 期いてささりしさま雰しん々の歳んとそン行ん座 待と三んん屋てんす囲い。でなに、にちを動。分 °気ム五すかな五ならオ的五室 大勉年のへさ、へ で強、お五んも五 を1月。でら月っを1な月 盛ド入 一れ入て教プ方入 す熱詩嬢月での月 °心吟さ入す静入 番る会い場ンで会 りメ会 。か会 H 1 パ最~まとさ で〜 げカ ワ長 すしれ九 °てま月 す て1 フ老 が くと ルで 貸すに

島

々面幾いに□ 繋興がとつう「神 ぐ味入いも募岳田 媒が会うの集精教 体あと利問広流場 とりな便合告詩で し、り性せを吟 て習まがが掲教新 `いし効あ載室宿 公たた果りのへ区 共い°的、との役 で新こお所 広方 告々 `宿ろ誘の にと 次西、い広 の口早一報 着教 目室 方正速と紙

真 田◇ 田声入か吟友治李 中神事と輩やらま好 努何よ空・の めとき気美林ゴ の会にを情一白昨 田 °き達っ」せ男 たか先にの先ル幸機を `通を先の秋宏教楽かもたやん子 い一生は合生フ知を決楽じ詠輩 - `明場しら唖吟っ 。 み`然はて入と と人 `心唱のを氏得意し身いの贈同氏 念前先洗にお通〔度。く体上音汪窓〔 な剣と見見会て じに輩わ始勧じ十く巧有衰げ声倫会十 有道し事るしも て吟にれまめて二念拙意朽た朗しの二 望とまなかて寿 いじ恵るるでか月じ不義の詩々を支月 新吟しも一の栄 まらま想一入ね入て問に残心 `吟部入 人でたのと初年 で鍛。、指日齢 すれれい連会て会お `過年に姿詠総会 °るたでの °よ〜り力ごを甚勢さ会` すえ小居名、と よこす教真り °た学並さ先は ま一さ`く毅れに うと。室・知 す杯ん心感然た於 と校ぶれ生思 。発と豊佩と林て 相故 の善己 のの先てかえ

杉 河 佐現公し 吉◇ 米 川つ詩を〇 原探て 谷れいも 合籍をあ年 藤わ子実 田丸流いえ 長紅明 の派易で岳 な吟とし職 しよ新 でも他佐 の岡っ齢足 風治明内でいい精徳がは模、場典でり宿善一中の藤節運村た的立瑠まんし 中さ生子女のとた流子る体索定は子お詩駅子緒野流さ子び先がに教璃しのた 村ん命さ子経早のでさとにし年明さら吟東さにと派んさと生 `遠場子た熱池 ののん教験速で是ん期もて後治んれを口ん入近でのんなも通距にさ 田意。 非、待良いに安へた勉で、会く勉俳、り快い離所ん 豊絡広共五しくた備田四と強お四さ、強句四まく易で属へ 尾分G四 富さ報勉月入 `とえ生月のし店月れ佐 `会月し諒い厳さ四 さでで月 なれ紙強入会気こ何命入事たを入ま藤経の入た解教しれ月 んし `入 方まをし会さ分ろか新会でい経会しさ験友会 『下場くて入 私た今会 も。は、 一すと営 たん豊達 さへ休い会 でし見た 「れ転だ良宿 。教、 。 に 富、 た換っいビ りの会たし 入磯亡 すたてい 、移中が 誘、詩 °にた趣ル 室か れ田き も。味の 移籍で、 をね わ住吟 他通考 て副平

1 加 納声 に強す三 佐 | 広航と増賑に読 は二係新お材バ 活人の宿りと1小 のナ関いが菱黒々ルい空しえや楽み酒田宿下さ楽くお六 気のNにましで佐隆新チわと、系瀬 も人機きてかし方井 づ有P事してす々氏人ユっ言現大 `隆好脈部り困にいは副好場いてみる い力〇務た仲。氏(でラてわ在手出氏きを門。つな人」教徳 てなを所。間大と四すルおれはの水へで持に現てりでい場氏 °ビらる、ビ田四強っ長役し、、ず長へ 新運を朝か学同月 ブれ特イー氏月いてく時ま女教み・一 皆人営構目ら時じ入 ラま徴スル達入方お `代う性場だ黒月 喜のしえ新も代グ会 l すあラ会の会。ら関は一陣の一瀬入 ん参て `聞一かル ト。るエ社仲) で加お観退目らし が 旅ルの間 おでり光社置優プ 行にOで 美 ま情後か秀の 会特Bす ま教す報はれなメ L 社にで、 す場 。関、て人ン 11

がのく成 渋東の はを動チに 久(合 願る寄 終し代い心稿前お発いし迎創に丸祀一百新爽果神谷陽輪銀 わプ替た情を号休行てムえ立祭の祭方七会やと田辰町を座 `掲でみすい `る廿ら内で `十員か明教山教拡分 ては材思深載掲でるま担実周れ第故五五のなる場氏場げ室 く宥がいい致載す事す当行年ま一大月名紹息いのを長るが °に°グ委記し^一杉十と介吹二新分の活 れめ製ま味し出 な一ル員念たが緑八なはがコ宿室理動本 ます作すわま来 りち1会大。銘山日り十感1区長解が荘 しか中°いしな 、よプ、会合板、のま九じス広にと実麗 たし止 はたか 九だがプを掌に平吟し名らが報分協を山 刻井楽た。れ続を離力結さ ま紅碑。会るき活独をびん △や満 月一熱口十 是行た のもくジ月 非間方 八つ身 員。、か立得、の 廿特活ェ廿 れ風第 ごに々 田と創 総本新しして耳吟 七別発ク九 `さ六 一溢の 編痍 `塚友 数号したた 読れご 号号にト日 永ん回 集の



HI 🔷

れ連大とは笑でさ会

`会手ぼ一声すん

ア社商やしが °の

ル等社くわ一本友

コにのこが層当人

水新てもが深

教されし探琴の

。、でタ三^レ

忙すイ味と

し。プ線言

い地でとう

方元吟趣ゴ

ででに味ル

すは対もフ

が民し広仲

頑生てく間

つ員先奥す

で

張委も、



は康

見山

事副

な教

成場

果長

とと

し小

て林